

公開シンポジウム

女性と防災

次世代へつなぐ協働の実践へ

2019年1月26日（土）

エルパーク仙台 ギャラリーホール（仙台三越定禅寺通り館6F）

プレイベント 13：10～13：50 （開場 13：00）

第一部 14：00～16：00

第二部 16：15～18：30

入場無料

主催：「女性と災害」研究グループ

代表 宮城学院女子大学 天童睦子

共催：NPO 法人イコールネット仙台

協力団体：せんだい女性防災リーダーネットワーク

プログラム

総合司会 浅野富美枝

イベント 13:10~13:50

せんだい女性防災リーダーネットワーク活動紹介

Food & Smile! 学生ボランティアによる災害時の食づくり紹介 (Food & Smile!とは☞)

第一部 14:00~

趣旨説明 「女性と防災」東日本大震災に学ぶ一次世代とつくる新たな協働の実践へ

基調講演 「宮城発! 元気になる女性学—「女性が語る東日本大震災」の分析から」

天童睦子 宮城学院女子大学教授

講演2 「災害につよいまちづくりと女性のエンパワーメント—地域防災と女性視点」

浅野富美枝 NPO 法人イコールネット仙台理事 元宮城学院女子大学教授

実践報告 「女性目線で現場を見る—防災と男女共同参画」

石本めぐみ NPO 法人ウイメンズアイ代表理事

〈休憩〉

第二部 ワークショップ「女性と防災」新たな協働の実践へ 16:15~

☆ワークショップでは3人の発言, 問題提起を受けて, グループディスカッションをします。ぜひ最後までご参加ください。

ファシリテーター 浅野富美枝

菅野澄枝 仙台市地域防災リーダー, 岩切の女性たちによる防災宣言を作る会世話人

報告1 「女子大学から立ち上がる子どもの命を守る防災プロジェクト」

佐々木夏未 宮城学院女子大学教育学部3年

MG-LAC 学生ボランティア Save the Smile 代表

報告2 「建築学から見る防災・震災対応—住まいづくりと女性視点の可能性」

本間義規 宮城学院女子大学生活科学部 教授

報告3 「市民女性が防災を変える—仙台モデル」

宗片恵美子 NPO 法人イコールネット仙台 代表理事

報告者プロフィール (報告順)

第一部

天童 睦子 (てんどうむつこ) 宮城学院女子大学・一般教育部・教授 国際ジェンダー学会理事, 日本教育社会学会理事, 日本学術会議連携会員。

専門: 女性学, 教育社会学, キャリア形成論

主な著作 『女性・人権・生きること』学文社, 2017, 『教育の危機—現代の教育問題をグローバルに問い直す』(原著 Cologianakis, P. et al. eds., 天童睦子監訳) 東洋館出版社, 2017, 『育児言説の社会学—家族・ジェンダー・再生産』(編著), 世界思想社, 2016 など。

浅野 富美枝 (あさのふみえ) NPO 法人イコールネット仙台 理事, 元宮城学院女子大学・生活文化デザイン学科・教授

専門: 家族社会学, 女性学

主な著作 『女たちが動く—東日本大震災と男女共同参画視点の支援』(共著) 生活思想社, 2012, 『みやぎ 3.11 「人間の復興」を担う女性たち—戦後史に探る力の源泉』生活思想社, 2016, 「被災者支援に取り組んだ女性たちの現在」『We Learn』2016年3月号など。

石本めぐみ (いしもとめぐみ) NPO 法人ウイメンズアイ代表理事 W20 日本運営委員。元金融会社の社長秘書。災害ボランティアとして宮城へ来て, 女性支援チームリーダーとして避難所や仮設住宅の支援に携わり, 女性支援団体を立ち上げる。

(NPO 法人ウイメンズアイとは☞)

第二部 ワークショップ報告

佐々木夏未 (ささきなつみ) 宮城学院女子大学教育学部・児童教育専攻 3 年 (大槌町出身) 宮城学院女子大学学生有志によるボランティアグループ Save the Smile 代表。子どもの命を守るプロジェクトを経て, 理科教育に防災を盛り込むなど, 他大学の学生とも連携して, 子どもの教育にかかわる活動を続けている。

本間義規 (ほんまよしのり) 宮城学院女子大学・生活科学部生活文化デザイン学科・教授

専門: 建築環境工学, 建築設備, 省エネルギー工学

報告にかかわる主な論文 本間義規: 応急仮設住宅の温熱環境と改善: アーキテクチャで生活と環境を守る, 建築雑誌 127(1633), 38-39, 2012/06, 一般社団法人日本建築学会.

本間義規: 岩手県内の応急仮設住宅の居住環境の実態, 日本雪工学会誌 29(1), 49-53, 2013/01, 日本雪工学会.

Yoshinori Honma: Case Study on Ventilation for Improving the Hygrothermal Behavior of Emergency Temporary Housing under Japanese Conditions, International Journal of Ventilation, Vol.14, 209-218, 2015/10

宗片恵美子 (むなかたえみこ) 特定非営利活動法人イコールネット仙台 代表理事

2003 年イコールネット仙台の設立にかかわり、男女共同参画をテーマに幅広い活動を展開している。震災以降は、被災女性を対象とした支援活動や調査活動、地域防災の担い手となる人材育成等に取り組んでいる。

『女たちが動く-東日本大震災と男女共同参画視点の支援』（共著）生活思想社，2012，
「防災・災害復興に女性の力を活かす」NEWC 実践研究第 8 号，2018，など。

ファシリテーター

菅野澄枝 仙台市地域防災リーダー，岩切の女性たちによる防災宣言を作る会世話人

東日本大震災を機に、女性が防災減災に関わることの大切さに気付き、活動を始める。連合町内会の総合防災訓練の運営や各関係機関の防災講座で講師やファシリテーターを務め、命を守る行動を伝える。

NPO 法人ウイメンズアイとは☞ 女性が自らをいかし、元気に活躍できるというビジョンを掲げ、東北の女性を応援する活動に従事。2011 年 9 月に女性が集まる場づくりのため仮設住宅集会所でスタートした講座，ワークショップは 800 回を超える（2018 年現在）。東北の次世代女性リーダー育成「グラスルーツ・アカデミー東北」は 2018 年 11 月までに 9 回開催（2 回海外），信頼し助け合いながらアクションを起こせるネットワークづくりと学びの場をつくっている。

イベント報告 Food & Smile! ☞ 宮城学院女子大学において栄養学や教育学を学ぶ学生（食品栄養学科）有志で結成されたボランティアグループ。東日本大震災を通じて、災害時にもおいしく楽しく健康的に取れる食事のレシピ開発などを通して、児童館や地域で活動中。

本公開シンポジウムの開催にあたっては、準備段階から多くの方々の助力を得ました。共催の NPO 法人イコールネット仙台の宗片恵美子さんはじめ皆様には多くのアドバイスをいただきました。また協力を快く引き受けてくださったせんだい女性防災リーダーネットワークの皆様，会場のエルパーク関係者，（公財）せんだい男女共同参画財団，仙台市役所ほか，各方面の皆様にも、広報面でもご協力をいただきました。宮城学院女子大学の教職員，学生たち，参加くださった市民の皆様，そして遠方からかけつけてくださった研究者，友人，参加者の方々に心より御礼申し上げます。このシンポジウムが世代や立場を超えて、人びとがつながり合う，未来社会をひらく一助となれば幸いです。

研究代表 天童睦子

*本シンポジウムは JSPS 科研費（16K02044 研究代表 天童睦子）の助成を受けたものです。

趣旨説明

本シンポジウムは「女性と防災」に焦点を当て、学生、市民がともに、防災や復興、地域社会のあり方を女性学、男女共同参画の視点から検討することを目指している。

東日本大震災から年月が経過し、被災地最大の都市仙台市の街並みからは、震災の記憶が薄らぎつつあるようにも見える。しかし、ひとたび津波の被災地を訪れると、被災地前の生活環境を喪失させたままの地域の姿があり、震災遺構、防潮堤の建設や震災遺構を巡って葛藤が続く現実がある。

「女性と災害」研究グループ（天童・浅野）立ち上げの契機は、2015年春に遡る。同年4月から宮城学院女子大学に女性学の担当教員として赴任した天童と、同大学で長年教鞭をとり、2011年東日本大震災前から仙台や宮城の各地で地域女性との連携に尽くしていた浅野が出会い、災害・防災の研究と実践に女性視点を、との点で一致した。共に、社会学や女性学の分野で培ってきた経験を、学生に伝えること、地域に還元すること、とりわけ、これからの地域防災や市民社会の形成に欠かせないジェンダー平等と多様性配慮の視点を共有すること、これは宮城という被災地にある女子大学に関わるものの使命であると考えた。

2016年には研究助成（科研費）を得て、宮城、福島的女性たちへの聞き取り調査を行うとともに、同年秋には「女性と災害」をテーマに公開シンポジウム「人間の復興と女性のエンパワーメント」（於 宮城学院女子大学）を開催した。シンポジウムの報告者の一人として浅野は「被災者が復興の主体となるための支援を」と呼びかけた。

女性被災者支援に焦点化し、生きる力を回復する支援、復旧・復興の担い手になる支援といった、女性の市民ネットワークの地道な活動から編み出された視点は、阪神淡路大震災時（1995年）の教訓をふまえ、東日本大震災時の多大な犠牲のもとに獲得した教訓である。

本シンポジウム「女性と防災一次世代へつなぐ協働の実践へ」は、第一に、災害復興や防災の議論のなかで、ともすれば周辺化される女性、子ども、マイノリティの抱える困難に注目し、葛藤や困難の背景にある社会構造（しくみ）と日常実践（日々の暮らし）をつなぐこと、第二に、地域でさまざまに活躍する市民グループと、女子学生を中心に次世代を担う若者たちの学びと活動をつなぎ、目の前の、また将来の課題について、世代を超えて議論することを目的としている。

私たちの研究発信が、地域社会の未来を拓く一助となれば幸甚である。

2019年1月26日

「女性と災害」研究グループ 天童睦子・浅野富美枝